

NISAおよび投資の基礎

○NISAは**制度**であり、株や投資信託の銘柄※ではない。

○個人の資産形成のため、イギリスのISAを参考に日本がNISAを作った。



つみたては、ニーサ！

つみたてワニーサ

ある日突然人間界に現れた優しいワニ。

ゆっくり慎重派だけど、

みんなから信頼され愛されている。

どっしりと安定感のある背中には

いつも何かを乗せて運んでいて、

不思議なしっぽは右肩上がりに成長していく。

※ちなみに、株の代表的な銘柄は、

「トヨタ自動車」や「ソニーグループ」。

投資信託の代表的な銘柄は、

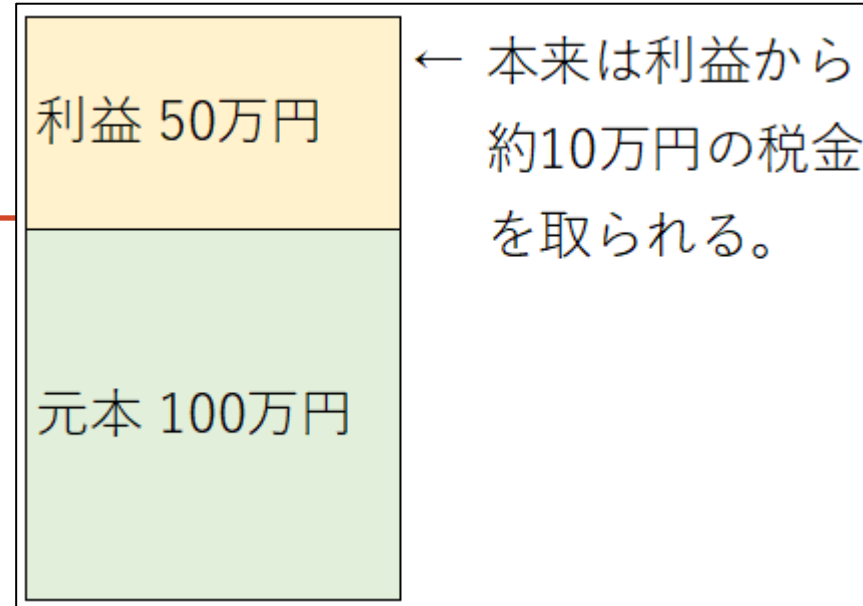
「eMAXISlim米国株式(S&P500)」や
「eMAXISlim全世界株式(オール・カントリー)」。

「つみたてワニーサ」は、NISAでのつみたて投資と皆さんの資産形成を応援する金融庁公式キャラクター。

金融庁「つみたてワニーサのご紹介」
<https://www.fsa.go.jp/policy/nisa2/wa-nisa/>

NISAは何が得なのか

○たとえば、100万円を投資して、150万円になった。
利益は50万円。



通常は、利益50万円に税金が約20%課され、もうけは約40万円になる。

$$(50\text{万円} - 50\text{万円} \times 0.2 = 40\text{万円})$$

しかし、**NISAを使えば、税金はかからない**ので、もうけは50万円になる。

つまり、約10万円得することになる。

○NISAは少額投資**非課税**制度と言われるのはこのため。

NISAでどれだけ投資できるのか

	つみたて投資枠	併用可	成長投資枠
非課税保有期間	無制限		無制限
制度 (口座開設期間)	恒久化		恒久化
年間投資枠	120万円		240万円
非課税保有限度額 (総枠)	1,800万円		1,200万円 (内数)
投資対象商品	長期の積立・分散投資に適した 一定の投資信託 (金融庁の基準を満たした投資信託に限定)		上場株式・ 投資信託等 ※
対象年齢	18歳以上		18歳以上

○たとえば、毎月5万円積み立て投資を
すると、年間60万円。

これを30年続ければ**1,800万円**に達する。

○積み立て投資をする場合は、通常は
「**つみたて投資枠**」を使う。

「成長投資枠」でも積み立てられるが、

将来個別株を買いたくなった時用に残しておく。

NISAで月5万円を30年間積み立てるとどうなるか(利回り5%の場合)



NISAで買える銘柄

○つみたて投資枠では、信託報酬(費用のこと)が低い投資信託に限られている。

- ・ **eMAXISSlim**全世界株式(オール・カントリー)・・・別名ムカン。全世界に分散。

米国株が下落しても他の国でカバーされるので値動きが激しくない場合あり。

- ・ **eMAXISSlim**米国株式(S&P500)・・・米国の主要500銘柄に分散。

一般的にムカンよりリターンは高いが、乱高下することも(これをリスクが高いという)

楽天証券なら、「**楽天・フラス**・オールカントリー株式インデックス・ファンド」

「**楽天・フラス**・S&P500インデックス・ファンド」でもよい。※赤字のブランドが信託報酬安いので良い。

円建ての平均リターン

○**MSCI ACWI(オルカンの指数)** 過去37年間の年平均リターン **9.03%**

○**S&P500** 過去30年間の年平均リターン **12.2%**

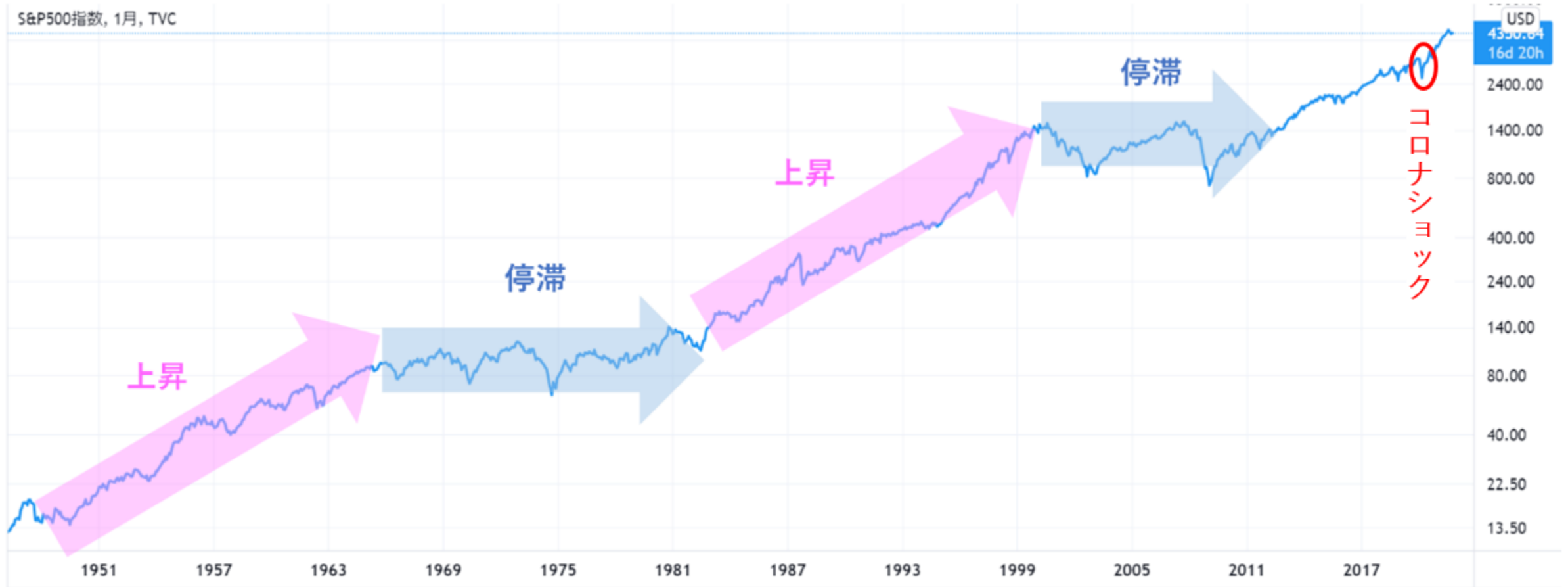
出典：

Index Factsheet.MSCI ACWI Index (JPY).<https://www.msci.com/documents/10199/dad48a28-fafb-4e4a-bfff-8ff7ddf9df90>

myINDEX.S&P 500 (配当込み) (円).https://myindex.jp/data_i.php?q=SP1001JPY#google_vignette

1950年頃からの米S&P500指数の長期チャート

○基本的に右肩上がり。15年ほど停滞することがあるが、その後は上昇している。



株とは

○株とは、株式会社が資金を調達するために発行する株券のこと。

株主には企業の利益に応じて**配当金**が分配される。(されない銘柄もある)

理論的には、会社の利益が2倍になると、配当も2倍になるので、株価も2倍に。



投資信託とは

○投資信託とは、投資をプロの投資家などに信じて託した金融商品のこと。

プロの投資家などは複数の株式などに**分散投資**を行う。



投資信託とは

○プロの投資家が株を選定しない(一定のルールに従って選定される)ものを

インデックスファンド、選定するものを**アクティブファンド**と言う。

インデックスファンドはプロの投資家がないので、信託報酬が安い。

したがって、**長期で投資する場合はインデックスファンドを選ぶべき。**



費用安い！

インデックスファンド



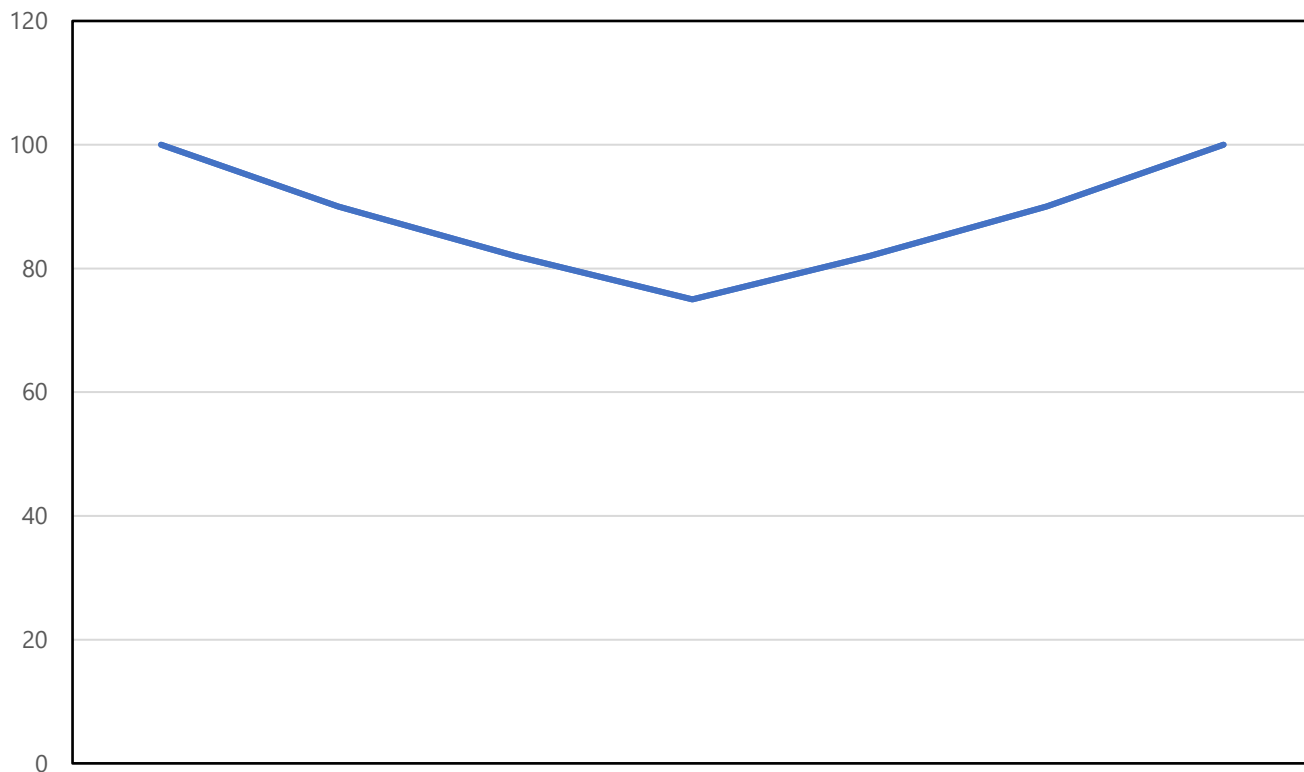
費用高い！

アクティブファンド

※eMAXISlim全世界株式(オール・カントリー)、eMAXISlim米国株(S&P500)、楽天・プラス・オールカントリー株式インデックス・ファンド、楽天・プラス・S&P500インデックス・ファンドはすべて**インデックスファンド**である。

なぜ一括ではなく積み立てがよいのか

- 一括の場合、購入後に下がり続けると耐えるのがつらい。
- 積み立ての場合、購入後に下がり続けても安い値段で多くの口数を買える。



左図のように、評価額がいったん下がって元に戻った場合、一括の場合は利益は0だが、積み立ての場合は利益が出る。

NISAのデメリット

○損益通算ができない。たとえば、以下を相殺できないので税金を多く払うことに。

NISA口座で損失

特定口座で利益

○損失の繰り越し控除ができない。

通常は損失が出た場合、確定申告すれば翌年以後3年間の利益と相殺できるが、NISA口座ではそれができない。

ポートフォリオ

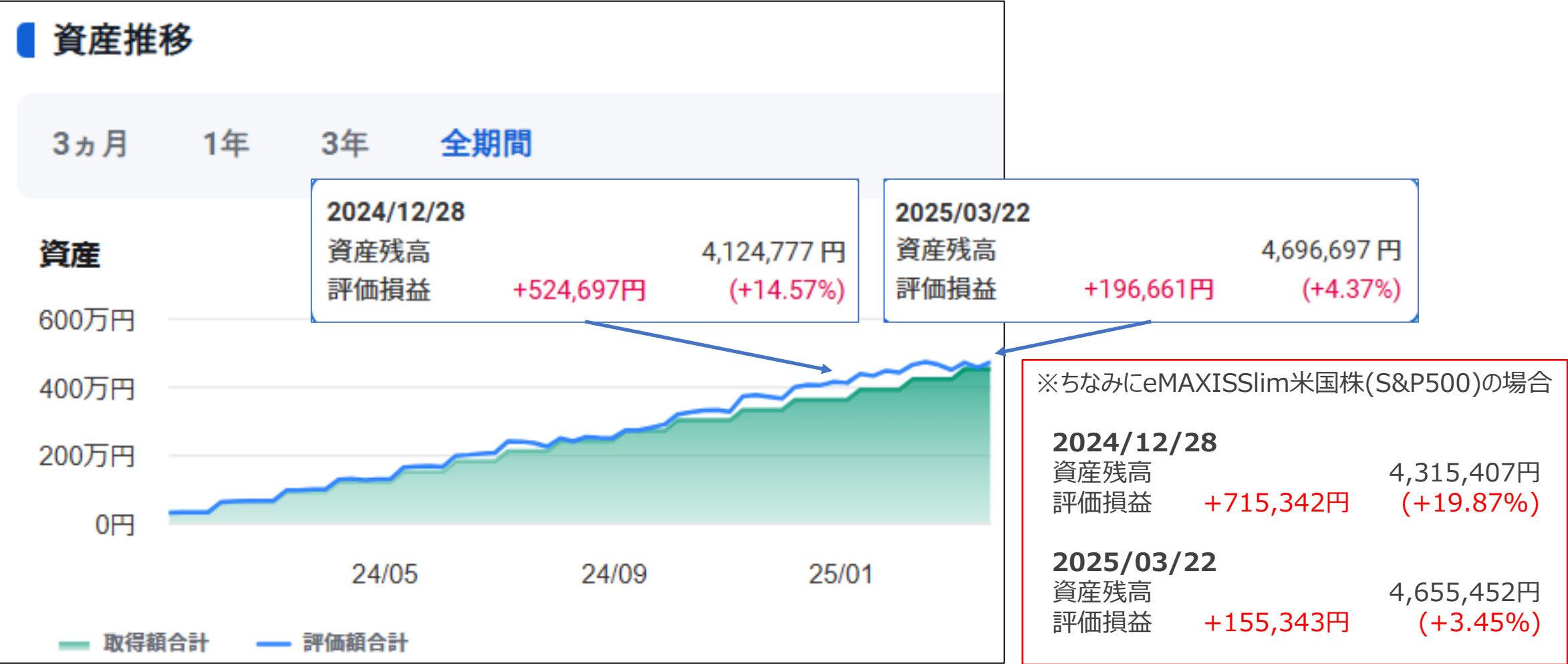
○どの銘柄にどの割合投資しているかを**ポートフォリオ**と言う。

金融商品の組み合わせのこと。たとえば、

- ・**标カン100%** … 世界分散されているのでこれでもOK。一番シンプル。
- ・**S&P500 100%** … 米国が好き、あるいは信じられるのならこれでもOK。
- ・**标カン50%、S&P500 50%** … 米国の割合が高くなるがこれでもOK。
- ・**标カン33%、高配当の投資信託 33%、金(ゴールド)34%** … ゴールドの割合高めだが、バラバラの動きをするので、分散という意味でこれでもOK。

NISAで実際の結果

○2024年1月からオルカンに月30万円ずつ積み立て投資した結果。



NISAのはじめかた

○株や投資信託を買うには証券口座の開設が必要。

証券口座はSBI証券か楽天証券のどちらかでよい。ネットで申し込む。

(これらネット証券は金融商品が多く、手数料が安い。)

- ・三井住友カードを使用しているならSBI証券。画面は慣れれば問題ない。
- ・楽天カードを使用しているなら楽天証券。画面が見やすいと言われている。

○特定口座(源泉徴収あり)でNISA口座、銀行口座も同時に申し込めばよい。

※一般口座としてしまうと、自分で税金を計算しなければならないので面倒。

やってはいけない投資

- FX**…絶対にやってはいけない。為替の価値は分からない。
- 仮想通貨(暗号資産)**…仮想通貨を理解できないならやってはいけない。
ただの暗号化されたデータである。それ自体に価値はない。
- 個別株**…いきなり高額でやってはいけない。はじめは高配当銘柄を少額で
買うとよい。個別株を買う場合は最低でも5銘柄から10銘柄に分散すべき。
- 信用取引**…絶対にやってはいけない。借金をして投資をするようなもの。
暴落時に必ず痛い目を見る。現金のみで買う(現物取引)のみ行うようにする。
- 短期投資**… 1日～数か月で売買するもので、やってはいけない。ギャンブル。
長期投資(3～5年以上保有)をするように。